観自在王院の南門跡

1950年代になってようやく発掘調査が行われ、このシンプルな南門は、伽藍の南側の端に沿って立っていた土壁の中央にはめ込まれるようにしてつくられたことがわかりました。この発見は、観自在王院の境内の南北境界が当初考えられていたよりも長いことを示しています。門のすぐ北にある広い草地はまだ調査が行われていません。